

第 12 回すばる小委員会議事録

日時：5 月 27 日（水）午前 11 時 15 分より午後 4 時 15 分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 3F TV 会議室（ハワイ観測所、京都大学、東北大学、神戸大学、JAXA と TV 会議接続）

出席者：青木和光、有本信雄、川端弘治、高遠徳尚、田村元秀、浜名崇（午後のみ）、山下卓也（以上三鷹、青木委員と田村委員は「すばる春の学校」のために途中退席）

林正彦、臼田知史、高見英樹（ハワイ観測所から TV 会議接続）

伊藤洋一（神戸大学から TV 会議接続）、松原英雄（JAXA から TV 会議接続）、

太田耕司、菅井肇（京都大学から TV 会議接続、太田委員は午後のみ）

市川隆（東北大学から TV 会議接続、午後 2 時まで）

欠席者：本原顕太郎、吉田道利

書記：吉田千枝

（注）新型インフルエンザの流行に配慮し、TV 会議ベースで開催した。

1 所長報告

1.1 WFMOS について

Gemini ボードが予算確保の難しさから WFMOS 製作を進めないことを決定した。Aspen プログラムのうち、GPI だけを製作し、それでプログラムの終了とするそうだ。

日本のコミュニテイがバックアップしようという機運が高まっていた装置なので、このままで終わらせたくない。なんとか資金源を模索し、WFMOS 様の装置の実現を期したい。

Q：なぜ WFMOS 計画が中止となったのか、経緯がわからない。

A：当初から予算の目途は立っていなかったが、あてにしていたアメリカの景気対策資金が獲得できなかった。

Q：そもそも Gemini の将来は大丈夫なのか？

A：Aspen プログラムは Gemini の通常の運営予算とは全く別であり、今回のことは通常の運用とは関係ない。

1.2 FMOS 時間に関する UK 提案について

高遠委員による説明 1 :

FMOS 時間には GT、一般共同利用、戦略枠の 3 つの枠が想定されるが、日英の共同研究を通して UK 側の 30% 使用を実現するという基本については合意した。

UK の研究者が共同研究者に含まれるプロポーザルも UK プロポーザルとみなす。

GT については日英の FMOS 製作者で相談することとした。戦略枠は UK と共同で提案し、提案チーム内の相談によって UK 側 30% 使用を実現する。

Q : 各枠ごとに UK 側 30% を実現するのか？それとも全体でならして 30% になればよいのか？

A : そこをあえて明確にしていない。各枠ごとに 30% というのは大変だろう。

説明 2 :

一般共同利用については、できるだけ日英の共同研究で提案してもらうのがよいが、UK 側がやりたいサイエンスが採択されない可能性がある。UK 側の意志を反映した採択をしてほしいという強い先方の意向がある。UK 側で UK プロポーザルに順位付けするような案が出されたが、日本の TAC との整合性が取れず関係が複雑になりすぎる懸念があった。そのためレフェリーを 1-2 人 UK から選ぶという案を日本側から提案し、UK 側はこれを了承した。

Q : それは期間限定なのか？

A : 最初の協定が 5 年間ということだったので、FMOS 開始から 5 年間だろう。協定の延長については FMOS 委員会で議論することになるだろう。

説明 3 :

FMOS 委員会というのは UK の 30% 使用を監視する委員会で、UK ・日本双方から各二人の委員を出す。日本側委員を SAC で指名してほしい。

Q : PI であれ CoI であれ UK の研究者が入っていたら UK プロポーザルとみなされ、それが採択分の 30% になればよいという理解だった。ならば戦略枠については UK の人が入るのだから 100% とみなせるのではないか？

所長 : 戦略枠については、提案チーム内の解釈にお任せする。

きょう議題になっている International Proposal の問題とも関係するが、UK、プリンストン大学、台湾は通常の International Proposal とは別に扱いたい。公募要項にも FMOS 提案は UK との共同研究を推奨すると明記したい。

所長補足：

UK側の意志を反映した審査ということに不安もあるだろうが、公平な審査が行われるかどうかをよく注視し、問題がある場合はFMOS委員会で解決すればよい。FMOS委員会の日本側の委員はSAC委員長とSAC委員1名でお願いしたい。

委員長：6月のSACで再度議論した上でUKレフェリーの件とFMOS委員会のメンバーを決めたい。

1.3 HSC フィルター・ポリシーについて(高見)

前回のSACでフィルターの移管についてもっときちんと調べてほしいということだった。愛媛大学ではフィルターを消耗品として扱うので移管の問題は発生しないそうだ。

あとはハワイ観測所と当事者で覚書を交わすのでよいと思う。

また、製作者が最初に使う権限があるのではないのか？という話も出たが、その点も特に問題視していないそうだ。これを最初の例として、初期使用の権限を製作者に与える等はしない方針だ。

委員長：前回の問題点はクリアしたので、観測所案でいいのではないのか？
(委員の同意)

Q：このポリシーはハワイ大学にも適用されるのか？

A：このポリシーの英訳を見せたが特にコメントはなかった。ハワイ大学では当面フィルターを作る予定はないそうだ。

2 京都会議報告：

LOC 報告：

約200名の参加者があり、盛況だった。

委員長：LOCの皆さん、ありがとうございました。研究者どうし直接会えたのは大きな収穫だった。

Q：集録は作らないのか？

A：ウェブ上に作る予定だが、まだファイルが全部集まっていない。

C：学生に頑張って発表させたのにADSに載らないのは残念だ。

A：理解はできるが、そもそもLOCマターかどうなのか。LOCとしては限られたマンパワーで主催したので手が回らない点もあった。また広範な分野にわたる研究会

なので集録はあえて省略したという側面もある。

委員長：今回のように広い分野にわたる研究会はどうだろうか？最近少ないと思うが。

C：非常に勉強になって面白かった。

委員長：Gemini と今後もこういう場をもつのか、また検討したい。

C：次回は Gemini 側に実施していただきたい。

C：Gemini UM に参加した日本人も結構いた。

C：Gemini 側は時間交換に意欲的で、交換装置を増やすことを希望しているようだ。

3 FMOS 戦略枠提案について

FMOS 製作チーム報告：

以前拡大 GTO 枠と呼ばれていた時代に全国に呼びかけて結成したコンソーシアムを引き継いで、昨年 9 月に第 1 回戦略枠 WS（国内）を行い、その後この半年くらいで装置の性能が出てきたので、5/23 に会議を行った。深探査と広域探査の 2 本立てで合わせて二百数十夜程度（300 に近い）のサーベイプランを考えている。6 月にイギリス主催の FMOS 会議があり、そこで戦略枠の素案を提案する。8 月に出る S10A の公募要項で FMOS が共同利用に公開される場合は、GT 領域も併せて公開する必要があるので、7 月くらいに戦略枠の概略を決めたい。

続いて第 1 回戦略枠公募のプロセスを委員間で確認した。

戦略枠提案は装置としての性能がきちんと出たからのほうがよいという意見と、戦略枠の審査には時間がかかるので早めに提案するのも一法という意見があった。

なお第 1 回戦略枠については HiCIAO の競合装置の立ち上がりが迫っていたため、提案を急いだ経緯が説明された。

Q：一次審査を通過した後で新たな参加者を募り拡大チームを作るという過程がよくわからない。

A：コアチームがイニシアチブを取るということだ。最初のコアチームのプランに賛同する人が参加することになる。

4 WFMOS-like(様)の装置について

委員長：WFMOS 様の装置製作を SAC として推奨するのかどうか？逆にここで中止すべきならそう表明したほうがいい。

C：単に資金の問題だけでなく推進体制の問題もある。専従となって進める人が必要になる

だろう。

C：まず HSC の予算が足りないので、すばるとしてはまずそちらをきちんとやるべきだ。

次に大事なものは TMT だろう。

委員長：HSC はすでに SAC マターではなくなっている。

WF MOS 様の装置を作るためには、資金提供が見込める海外機関と MOU を結んで共同でやっていくしかないだろう。

C：そのためには強力に推進する主体が必要になる。

C：少し事態を静観してはどうか？ 今日決める必要はないだろう。

所長：Gemini でどういう装置を作るかについても SAC で議論してもらっていい。

Gemini 側も参加してもらっていいと言っている。

委員長：これまでの WF MOS 交渉で詰めた事項のうち、WF MOS 以外のことは今後にかかしていくとよいのではないか？

C：今回の件で、Gemini が信用できるパートナーなのかどうか不安になったが。

所長：あれが欧米流のやり方であり、文化の違いだ。

C：これまでは WF MOS を Gemini が作るというのが大前提だった。それが崩れたのだからもう一度コミュニティで議論すべきだ。天文台として予算獲得の努力をするというのならやってもらえばよいし、(その結果が出ない) 宙ぶらりんの状態であってもすばるの装置については議論を進めたほうがいい。

5 International Proposal の増加について

委員長：TAC 委員長から S09B の International Proposal の採択数が全採択数の 30% に増加しており、なんらかの制限が必要ではないか？ という連絡があった。

所長：以前の TAC へは伝えてあるのだが、問題となるのは日本人が共同研究者に入っていない提案だけだ。日本人の名前だけ書かれていて共同研究の実態がないなど、あまりにひどい場合は TAC の権限で不採択にしてもらってよい。これからは国際化の時代なので制限を設けて複雑にすることはしたくない。

C：どの望遠鏡も PI は国際化している。すばるが制限すると逆にこちら側の提案が制限されてしまうかもしれない。

C：昔の International Proposal 10% という制限が低すぎるので、30% はそんなに多くないと思う。

C：日本人 PI の採択率や応募数が減っているのが気になる。

C：そうだとすると、応募数が減っていることの方がむしろ問題で、SAC で検討すべき課題だろう。

C：論文の著者比率も外国人のほうが多いようだ。

委員長：TAC 委員長には「このまま様子を見ます、International Proposal の上限は設けません」と返事をします。所長コメントも併せて伝えます。

6 報告事項

6.1 TAC 改選について

TAC 委員 3 名が交替するので候補者を選定する必要がある。TAC からはすでに後任候補者の推薦をいただき、これから光天連でも公募推薦を行う。それを受けて 7 月の SAC で後任候補者を決定し、光赤外専門委員会に諮る。

6.2 TAO6.5M の観測装置について(質疑応答は次回)

TAO6.5M の観測装置として中間赤外撮像分光カメラと近赤広視野多天体分光カメラの開発を行うが PI 装置としてすばるに持ち込み可能な仕様を構想している。

C：すばるにつける場合は COMICS や MOIRCS とどういう違いがあるのかわからない。すばるの時間を使うわけだから、わざわざ同じことをやるのではなく、ユニークなことをやってもらいたい。

7 Gemini との協力関係について

委員長：Gemini が信頼できるパートナーなのか疑問だという意見があったが、今後の協力関係について考えたい。

C：装置計画の予算的裏付けについて確実な情報を知らないとまた時間の無駄になる。

C：これからはよく話し合う隣人になりましょうということだろう。

副所長：Gemini の装置の WS が近い将来にあるので SAC から参加し、Gemini にどういう装置を求めるのかを言うべきだ。

委員長：Gemini で行うサイエンスについての WS を国内で実施してはどうか？10 月ごろにどうか？

副所長補足：

Gemini には下記の 5 つの装置提案があるそうだ。

- Ground Layer AO
- NIRI(Near IR Imager with Grism Spectroscopy) の後継機
- Wide Field Infrared Imager or Spectrograph

・ New Mid- Infrared Instruments

・ GMOS(Multi-Object, Long-slit and IFU Spectrograph and Imager)の後継機
すばるとしてはどれがいいか？と聞かれている。

委員長：日本から Gemini に常駐する人を送る必要はないか？

副所長：ヒロは Gemini のオペレーションをしている場所に過ぎないので、それよりは
UK や米本土でどういう議論がされているかを聞いたほうがよい。

所長：隣人としての交流は今後も深めていく。

***** 資料 *****

- 1 FMOS に関する UK との交渉録
- 2 HSC 用フィルター 受け入れ方針案
- 3 TAC からの審議依頼事項
- 4 TAO6.5m 観測装置について
